

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ冒険立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年5月22日 NO.21 (221)



カタツムリ「花ちゃん・オー君。そして、国立七小のよい子のみんなに、クイズをだすぞ。

さあ、一生懸命に考えておくれよ。」

花ちゃん 「うわあー。楽しそうですね。」

カタツムリ「さて、はじめのクイズ。上のもようは何だかわかるかい。」

花ちゃん 「何だろう？」

オー君 「はてな・・・何だろう？どっかで見たけどな・・・。」

カタツムリ「上のもようはな、おいらの足あとみたいなものさ。」

花ちゃん 「足あと？」

カタツムリ「あら・・・まちがえた。足あとではなくて、食べあとさ。」

オー君 「食べあと？何を食べたの？」

カタツムリ 「おいらは、草や葉っぱがすきだろう。これは、橋やガードレールなどにある
緑色の『コケ』を食べたあとなのさ。おもしろいかたちをしているだろう。」

花ちゃん 「ふーむ。そうなんだ。」

カタツムリ 「次のクイズにいくよ。おいらは湿った場所がすきだけど、もし、おいらを飼う
ときに、ぜったい必要なものって、なーんだ？」

オー君 「ぜったい必要？何だろう・・・食べものはもちろんだし、水もだけど・・・。」

カタツムリ 「それはね、『たまごのから』や『貝』なんだ。」

オー君 「たまごのから？」

花ちゃん 「貝？」

カタツムリ 「おいらは、からをかぶっているだろう。その栄養になるからさ。」

オー君 「ふーむ。そうなんだ。」

カタツムリ 「次のクイズだぞ。大人のカタツムリと 子供のカタツムリを見分けるのは、
どうすればいいのだろう。こりゃ、むずかしいよ。」

花ちゃん 「大きいのが大人のカタツムリ？」

オー君 「小さいのが子供のカタツムリ？」

カタツムリ 「ちがうね。あのね、カタツムリの貝のはじっこをよく見てごらん。そこがめ
くれている、大人のカタツムリなのさ。」

花ちゃん 「ふーむ。そうなんだ。今度ゆっくりと見てみるわ。」

カタツムリ 「最後のクイズだよ。おいらを見つけてくれたのは、雨の後だったよね。それ
じゃ、晴れているときは、おいらたちはどこにいるんだろう。」

オー君 「どこだろう。」

花ちゃん 「今度、晴れているときにも探すわ。」

カタツムリ 「そうだね。また、おいらたちを見つけて
くれよ。それから、遊んだり、世話を
してくれたあとは、かならず手をあらおうね。」

